

代表者会議【資料2－4】

令和6年度 相談支援実施状況（令和6年4月～令和7年3月分）

事業所名：生活相談室とれいん

I 相談利用者の状況

相談形態	電話	来所	訪問	その他	月別延べ件数計 (件)計 4,156
	2,714	342	841	259	

相談者	本人	家族・親戚	その他機関等	月別延べ件数計 (件)計 4,156
	1,221	888	2,047	

地 域	茅ヶ崎	寒川	その他	実人数 (人) 計 304
	276	5	23	

障害種別	身体	知的	精神	発達	高次脳	その他	実人数 ※重複あり (人) 計 304
	27	154	26	58	0	39	

II 対応事業別の実績

事業項目		年間相談計 (件)
(1)市町村相談支援機能強化事業		2,004
(2)障害者相談支援事業		2,152
(内 訳) ※重複あり	(ア)福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)	3,366
	(イ)社会資源を活用するための支援	167
	(ウ)社会性活力を高めるための支援	159
	(エ)ピアカウンセリング	0
	(オ)権利の擁護のために必要な援助	39
	(カ)専門機関の紹介	24
	(キ)自立支援協議会の部会の運営業務	55
	(ク)上記以外の相談	491

III 相談の傾向や課題、その他の取り組み状況など

<p><相談支援事業></p> <p>【概要】</p> <p>(1)相談の傾向としては昨年度と大きな変化はなく、知的障害の方、または発達障害や精神障害を伴う知的障害の方の相談が大半を占めている。ただ、複合的な課題や緊急性を抱えている世帯・ケースが増えており、1回の相談や訪問支援、会議にかかる時間が増大している。相談業務に留まらず実際の生活支援に係る業務も増加しており、「同行・代行」「他機関との協働」の件数が年々増加している。</p> <p>児童から高齢者まで相談者の年齢層は幅広く、当事者、家族以外からは、市役所(障がい福祉課、地域福祉課、生活支援課、こども家庭センター)、地域包括支援センター、保健所、児童相談所、医療機関、学校、就労支援機関、児童養護施設、各種サービス事業所、ケアマネジャー、後見人等から相談があった。障害者手帳未取得の方や介護保険利用中の方からの相談も随時入っている。</p> <p>(2)相談内容は多岐に渡り、サービスの利用調整以外に以下のような相談があった。</p> <ul style="list-style-type: none">・親亡き後の生活支援や住まいの確保、各種手続きに関する事。・入居しているグループホームが利用できなくなり、次の生活の場の確保に関する事。・退院後の地域生活や一人暮らしへの移行について。・医療機関の受診に関する事。同行。・サービス利用中の出来事や支援に関する事。(職員の対応、トラブル等)・障害者手帳、自立支援医療証、認定調査、受給者証の発行や申請、セルフプランの作成に関する事。・介護保険サービスへの移行に伴う情報提供と繋ぎの支援。障害サービスとの併用について。・就労援助センター、あんしんセンター、成年後見支援センター等の専門機関の紹介・同行支援。・支援学校や高校卒業後の通所先や進路先の変更に関する事。
--

- ・住居や引越し、住環境の悪化に伴う清掃や整備に関する支援。
- ・障害基礎年金の受給や申請手続きに関する事。
- ・一人暮らしの方の生活状況の把握、行政手続き、家事、金銭管理、体調管理、通院、住居の契約・修繕、水道光熱費の支払い、携帯電話利用等に関する支援。
- ・精神的不安を訴える方への相談支援や傾聴。
- ・生活費のやりくりや経済的な事。(生活困窮、生活保護受給について)
- ・仕事が長続きしない。就労の困難さや不安について。
- ・家族・知人・職場・近隣等の人間関係に関する事。
- ・引きこもり状態にある方への訪問支援。家族への情報提供。
- ・訪問看護、訪問医療、リハビリ、福祉用具に関する事。
- ・余暇の過ごし方、福祉サービス以外の居場所に関する事。
- ・交通手段、公共交通機関の利用について。
- ・家族の介護や育児に関する事。書類作成支援。

(3)一人暮らしの方、高齢者・障害者で構成されている世帯、家族全員が障害をお持ちの世帯、(認知症や病気により)要介護状態の親が障害のある子をケアしている世帯等へは、特に手厚い支援を要する為、関係機関に協力を呼びかけ対応に当たっているが、さらなる連携強化が必要と感じている。また、緊急性の高い方、必要な支援を拒まれる方には継続的なアウトリーチが必要であるが、各相談員が担当しているケース数や困難事例が多い為、マンパワーの面で課題となっている。地域での相談員数の充足が必須である。

(4)サービス等利用計画作成の依頼が随時入るが、現相談員数での新規受け入れが困難な状況が依然として続いている為、やむを得ずセルフプランの作成補助を行いつつ相談支援を行っている。また、計画作成やモニタリングに関わる事務に多くの時間が割かれる為、一般相談支援事業に対応する時間の確保が課題となっている。地域全体で相談支援専門員が不足しているという状況が続いており、指定特定相談事業所へのケースの紹介や移行が進んでいない現状がある。

(5)相談支援の中にあつたご要望等について(現在充足されていないニーズ)

- ・医療的ケアや行動障害のある方が利用できるサービスの充足。
- ・利用したいタイミングや頻度でのショートステイの予約が取りにくい。突然の利用希望に対応して貰えないのでは、と不安を感じている。
- ・災害時の事が不安。(避難や電源の確保等)
- ・天候や親の急な体調不良等の等イレギュラー時に使えるヘルパーや送迎サービスが欲しい。
- ・同じニーズを感じている家族が集まって意見を言いたいが、時間・場所がない。
- ・放課後等デイが増えているが、重心や肢体不自由の児童が利用できる資源が少ない。
- ・夜間や土日の緊急時に対応できる相談窓口があるとよい。
- ・グループホームの数が増えているが、実際のサービスや支援の質について不安を感じている。

＜自発的活動支援事業＞

○本人活動支援事業

本人活動の会「湘南にじ」の運営と活動支援を行っている。2025年4月現在の会員数は約17名。定例会やイベントを当事者主体で話し合い実施した。

- ・4月 総会(8名)
- ・5月 定例会(7名)
- ・6月 新江ノ島水族館外出イベント(8名)
- ・7月 定例会(8名)
- ・9月 定例会(6名)
- ・10月 神奈川本人ネットワーク連絡会参加(2名)
- ・11月 定例会(8名)
- ・12月 カラオケイベント(7名)
- ・2月 定例会(7名)
- ・3月 ボーリングイベント(7名)

*()内は参加人数。

○その他、孤立防止活動支援として独居の方やサービス未利用の方に対し、生活上の不安等の傾聴、生活・健康状況等の確認、サービス利用の促し、市役所・銀行等への手続き同行、引越しや賃貸契約に関する手続きのフォロー、近隣トラブルや金銭管理についての助言・専門機関への繋ぎの支援等を行った。

